

令和5年度 事業報告

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が、インフルエンザと同類の5類移行となり人流の活発化が推進され、住民の交流・移動の増加が見られました。

ロシアのウクライナへの侵攻も1年が過ぎ、戦況は膠着状態となっています。また、イスラエルのガザ侵攻が人道上的懸念を生じさせ中東情勢の混乱を拡大し世界の経済にも大きな影響を与え、さらに円安の影響とともに国内では、さまざまなものの価格が上昇するなど私たちの生活も大きな影響を受け、日常生活を圧迫する事態となっています。

地球環境も不安定で火山の噴火、大規模地震、異常気象による豪雨、干ばつがおこり、国内でも令和5年7月に秋田県大雨災害、令和6年1月には、石川県能登半島地震さらには、東南海トラフや日本海溝での大規模地震が危惧されるようになっていきます。

このような状況の中で、陸前高田市社会福祉協議会は関係機関と連携し人口減少高齢化が進む地域事情から住民支援の視点での生活困窮者自立支援、支え支え合いの地域福祉活動を展開してきました。

総合相談から支援の実践としてフードバンク岩手の協力のもと緊急の食糧支援や「おたがいさまプロジェクト」(フードパントリー)を展開すると共に、その場で困りごとが相談できる機会をつくる取り組みをおこなってまいりました。

また、住民相互の支援体制を構築するためボランティア活動では、災害時、関係機関・団体が速やかに連携、協力し活動することが重要であるため、市町村域ネットワーク連絡会議、災害ボランティアセンター設置・運営に係る研修訓練を実施し、平時から顔の見える関係を築く取り組みをおこないました。

東日本大震災の被災経験からボランティア支援の重要性を認識し岩手県社会福祉協議会と共に秋田県大雨災害では秋田市社会福祉協議会、能登半島地震では石川県志賀町社会福祉協議会の災害ボランティアセンターへ職員を派遣し支援に取り組んでまいりました。

東日本大震災とコロナ禍により分断された市民のつながり地域コミュニティ再構築のため地域支え合い協議体事業の推進をおこない、長部地区での多様な活動や広田地区での地域課題に根差した意欲的な取り組みに支援をおこないました。また、保健福祉総合センターの交流室を利用し、地域住民が主体で健康を保持、生きがいを求めるスポーツ交流活動の場や運営支援をおこないました。

そのほか、子ども、高齢、障がい、ひきこもりなど様々な人々が、畑づくり

をきっかけにつながり、お互いを認め合い、支え合う地域の実現を目指す新たな地域づくりにも取り組んでいます。

さらに、本会の活動や福祉の取り組みについて広く紹介するため新たな手法としてPR動画を作成し、YouTube等で公開し、ホームページ等で広く開かれた情報発信に努めました。

陸前高田市地域福祉活動計画の基本理念「健康で安心して暮らせる支え合いのまちづくり」に向けて様々な事業に取り組みました。